

第2 - (1) - 1図 経済成長率の推移
(単位 %))

年	実質	名目
1981	2.9	7.5
82	2.8	5.0
83	1.6	4.0
84	3.1	6.4
85	5.1	7.5
86	3.0	4.7
87	3.8	4.1
88	6.8	7.6
89	5.3	7.7
90	5.2	7.7
91	3.4	6.4
92	1.0	2.6
93	0.2	0.8
94	1.1	1.2
95	2.0	1.4
96	2.7	2.2
97	1.6	2.2
98	-2.0	-2.0
99	-0.1	-1.4
2000	2.9	1.1
01	0.2	-1.0
02	0.3	-1.3
03	1.4	-0.2
04	2.7	1.6
05	1.9	0.6
06	2.2	1.3

第2 - (1) - 2図 名目経済成長率及び雇用者報酬（前年比）の推移
(単位 %)

年	GDP成長率	雇用者報酬（前年比）
1981	7.5	8.1
82	5.0	5.7
83	4.0	5.2
84	6.4	5.5
85	7.5	4.5
86	4.7	4.3
87	4.1	3.5
88	7.6	5.8
89	7.7	7.2
90	7.7	8.1
91	6.4	8.1
92	2.6	3.3
93	0.8	2.2
94	1.2	2.0
95	1.4	1.7
96	2.2	1.4
97	2.2	2.3
98	-2.0	-1.3
99	-1.4	-2.0
2000	1.1	0.5
01	-1.0	-0.7
02	-1.3	-2.4
03	-0.2	-1.5
04	1.6	-0.9
05	0.6	0.9
06	1.3	1.5

第2 - (1) - 3図 家計最終消費支出（実質）及び総人口の推移
(単位 千人)

年	家計最終消費支出 (1990年=100)	総人口
1980	69.9	117,060
81	70.8	117,902
82	74.0	118,728
83	76.0	119,536
84	77.8	120,305
85	80.9	121,049
86	83.5	121,660
87	87.0	122,239
88	91.2	122,745
89	95.6	123,205
90	100.0	123,611
91	102.8	124,101
92	105.4	124,567
93	106.8	124,938
94	107.4	125,265
95	109.4	125,570
96	112.2	125,859
97	113.0	126,157
98	111.8	126,472
99	112.8	126,667
2000	113.8	126,926
01	115.7	127,316
02	116.8	127,486
03	117.2	127,694
04	119.0	127,787
05	120.8	127,768
06	121.9	127,770

第2 - (1) - 4図 実質国内総生産に対する輸出入割合の推移
(単位 %)

年	純輸出	輸出	輸入
1980	2.4	7.9	5.5
85	4.1	9.3	5.2
90	1.4	8.4	7.1
95	0.4	8.8	8.3
2000	1.5	11.0	9.5
05	2.9	13.7	10.8

第2 - (1) - 5図 現地法人売上高及び海外生産比率の推移
(単位 億円、%)

年	現地法人売上高			海外生産比率		
	全産業	製造業	非製造業	全産業	製造業	非製造業
1990	998,064	261,947	736,117	6.5	6.0	6.7
91	887,372	253,650	633,722	5.7	5.6	5.7
92	790,072	251,135	538,937	5.1	5.8	4.9
93	917,377	290,398	626,979	6.0	6.9	5.7
94	934,381	344,934	589,447	6.1	7.9	5.4
95	948,547	366,998	581,549	6.0	8.3	5.1
96	1,237,905	474,225	763,680	7.9	10.4	6.8
97	1,275,755	520,732	755,024	8.0	11.0	6.7
98	1,266,086	506,640	759,446	8.4	11.6	7.1
99	1,192,294	508,234	684,060	7.9	11.4	6.5
2000	1,290,150	562,189	727,961	8.2	11.8	6.7
01	1,349,166	639,857	709,308	9.2	14.3	6.9
02	1,379,733	645,630	734,103	9.4	14.6	7.2
03	1,451,754	710,382	741,372	9.8	15.6	7.2
04	1,627,941	793,079	834,861	10.3	16.2	7.6

第2 - (1) - 6図 日本の対外・対内直接投資 (国際収支ベース)
(単位 100万ドル)

年	対外直接投資	対内直接投資
1990	48,024	1,753
91	30,726	1,368
92	17,222	2,728
93	13,714	86
94	17,938	888
95	22,651	40
96	23,443	208
97	26,057	3,199
98	24,627	3,269
99	22,266	12,308
2000	31,534	8,226
01	38,495	6,191
02	32,039	9,089
03	28,767	6,238
04	30,962	7,808
05	45,461	3,223

第2 - (1) - 7図 投資部門別株式保有比率の推移

(単位 %))

年	政府・地方公共団体	金融機関	事業法人等	証券会社	個人	外国人
1980	0.4	38.2	26.2	1.5	27.9	5.8
81	0.4	38.2	26.6	1.6	26.9	6.4
82	0.3	38.6	25.4	1.7	26.3	7.6
83	0.3	37.4	27.6	1.7	24.2	8.8
84	0.4	38.0	29.5	1.8	23.0	7.4
85	0.3	39.8	28.8	1.9	22.3	7.0
86	0.9	41.5	30.1	2.1	20.1	5.3
87	0.5	42.5	30.3	2.3	20.4	4.1
88	0.4	44.1	29.0	2.3	19.9	4.3
89	0.3	43.5	29.5	2.0	20.5	4.2
90	0.3	43.0	30.1	1.7	20.4	4.7
91	0.3	42.8	29.0	1.5	20.3	6.0
92	0.3	42.9	28.5	1.2	20.7	6.3
93	0.3	42.3	28.3	1.3	20.0	7.7
94	0.3	42.8	27.7	1.2	19.9	8.1
95	0.3	41.1	27.2	1.4	19.5	10.5
96	0.2	41.9	25.6	1.0	19.4	11.9
97	0.2	42.1	24.6	0.7	19.0	13.4
98	0.2	41.0	25.2	0.6	18.9	14.1
99	0.1	36.5	26.0	0.8	18.0	18.6
2000	0.2	39.1	21.8	0.7	19.4	18.8
01	0.2	39.4	21.8	0.7	19.7	18.3
02	0.2	39.1	21.5	0.9	20.6	17.7
03	0.2	34.5	21.8	1.2	20.5	21.8
04	0.2	32.7	21.9	1.2	20.3	23.7
05	0.2	31.6	21.1	1.4	19.1	26.7

第2 - (1) - 8図 売上高営業利益率・売上高経常利益率の推移

(単位 %)

年	売上高営業利益率	売上高経常利益率
1980	3.5	2.4
81	3.1	1.9
82	2.8	1.8
83	2.8	1.8
84	2.9	2.1
85	2.8	2.0
86	2.6	2.0
87	3.1	2.5
88	3.4	2.8
89	3.5	3.0
90	3.5	2.7
91	3.3	2.3
92	2.8	1.8
93	2.2	1.4
94	2.3	1.5
95	2.4	1.8
96	2.4	1.9
97	2.3	1.9
98	1.8	1.5
99	2.1	1.9
2000	2.6	2.5
01	2.2	2.1
02	2.4	2.3
03	2.8	2.7
04	3.1	3.1
05	3.2	3.4

第2 - (1) - 10図 重視する利害関係者（重視度指数）

利害関係者	企業規模計		上場企業計	
	これまで	今後	これまで	今後
顧客（最終消費者）	255	262	262	266
従業員	216	235	225	239
株主（個人投資家）	79	92	203	228
株主（機関投資家）	67	76	206	218
取引先銀行等（メインバンク）	168	171	194	196
取引先銀行等（メインバンク以外）	127	132	155	161
取引先の企業、政府、自治体	205	207	207	210
系列・協力企業（親会社を含む）	196	200	193	201
創業者等	127	118	138	132
地域社会やNPO・NGO	132	150	149	173
政府（監督官公庁など）	157	163	163	169

第2 - (1) - 11図 人材の活用・確保に関して重視する項目

（単位 %）

項目	中途採用者の活用	新規学卒者の定期採用	非正社員の活用	高齢者の継続雇用	外部人材の活用	非正社員の正社員への転換	障害者の採用	新規学卒者の通年採用	女性管理職の育成・登用	第二新卒者の採用	外国人労働者の採用
これまで重視してきた項目	62.5	57.9	52.1	33.0	26.9	12.6	11.2	10.4	8.9	6.0	3.3
今後重視していく項目	58.4	61.2	51.7	62.7	28.3	23.4	19.2	21.1	28.4	20.0	7.4

第2 - (1) - 12図 賃金・処遇に反映させる要素として重視する項目

（単位 %）

項目	職務能力や保有する資格	学歴・年齢・勤続等外形的な要素	継続的な成果の把握に基づく評価	職務の困難さ	短期的な会社や部門の業績	短期的な成果の評価	従業員の世帯の状況	部下による評価	同僚による評価
これまで重視してきた項目	53.4	53.3	50.5	34.8	25.3	25.2	14.9	2.9	2.7
今後重視していく項目	61.7	17.7	73.4	48.1	25.9	23.9	7.4	10.0	7.5

第2 - (1) - 13図 人材育成・キャリア形成に関して重視する項目

（単位 %）

項目	一部の従業員を対象とした選抜的な教育訓練の実施	従業員全員を対象とした教育訓練の実施	自己啓発の支援	経営幹部の育成のための特別な教育プログラムの開発・実施	一部の非正社員を対象とした教育訓練の実施	管理職キャリアと専門職キャリアの明確な区別	メンター制の導入
これまで重視してきた項目	55.1	45.3	39.9	20.2	7.0	3.6	2.2
今後重視していく項目	58.9	58.7	53.0	48.3	12.9	18.1	10.8

第2 - (1) - 14図 福利厚生・社内コミュニケーションに関して重視する項目

（単位 %）

項目	社内コミュニケーションの円滑化の取り組み	従業員の健康、メンタルヘルスへの配慮	従業員の福利厚生の整備	仕事と育児・介護等を両立できるための環境の整備
これまで重視してきた項目	58.7	39.6	36.6	23.9
今後重視していく項目	58.5	77.7	36.6	46.9

第2 - (1) - 18図 売上高・経常利益と雇用の関係

(単位 %))

項目		計	正社員雇用減少	正社員雇用不変	正社員雇用増加
売上高	減少	100.0	59.0	36.8	4.3
	不変	100.0	22.6	66.3	9.9
	増加	100.0	11.2	52.8	36.0
経常利益	減少	100.0	33.1	54.3	11.3
	不変	100.0	22.4	64.0	12.9
	増加	100.0	16.4	59.5	23.3

第2 - (1) - 20図 就業形態別教育訓練の実施状況

(単位 %))

就業形態・項目		実施した	実施していない	無回答
正社員	計画的なOJT	48.9	44.8	6.4
	OFF-JT	60.1	35.1	4.8
非正規従業員	計画的なOJT	18.3	71.9	9.8
	OFF-JT	17.4	72.6	10.0
派遣労働者	計画的なOJT	17.0	76.8	6.2
	OFF-JT	11.9	78.6	9.5

第2 - (1) - 21図 実質経済成長率の寄与度分解

(単位 %))

年	実質経済成長率	労働生産性要因	就業者数要因	労働時間要因
1981	2.9	2.6	0.8	-0.4
82	2.8	1.9	1.0	-0.2
83	1.6	-0.2	1.7	0.1
84	3.1	1.6	0.6	0.9
85	5.1	5.0	0.7	-0.6
86	3.0	2.6	0.8	-0.4
87	3.8	2.4	1.0	0.5
88	6.8	4.9	1.7	0.2
89	5.3	4.7	1.9	-1.4
90	5.2	4.4	2.0	-1.2
91	3.4	3.7	1.9	-2.2
92	1.0	2.6	1.1	-2.6
93	0.2	2.4	0.2	-2.4
94	1.1	1.4	0.0	-0.3
95	2.0	1.6	0.1	0.3
96	2.7	2.0	0.4	0.3
97	1.6	1.5	1.1	-1.0
98	-2.0	-0.3	-0.7	-1.1
99	-0.1	1.6	-0.8	-1.0
2000	2.9	2.3	-0.2	0.8
01	0.2	1.4	-0.5	-0.7
02	0.3	2.3	-1.3	-0.8
03	1.4	1.3	-0.2	0.3
04	2.7	2.0	0.2	0.5
05	1.9	2.0	0.4	-0.5
06	2.2	1.1	0.4	0.7

第2 - (1) - 22図 現金給与以外の労働費用に占める教育訓練費の割合
(単位 %))

年	教育訓練費の割合
1983	2.0
85	2.2
88	2.4
91	2.2
95	1.6
98	1.6
2002	1.5
06	1.8

第2 - (1) - 23図 1年前と比べた支出の増減
(単位 %)

年	支出について (現在と1年前を比べて)		
	増やしている	変えていない	減らしている
2000	6.3	52.0	41.7
01	6.1	50.9	43.0
02	5.9	49.1	45.0
03	4.3	45.9	49.7
04	5.8	48.1	45.4
05	6.9	49.8	43.2
06	9.9	53.2	36.9

第2 - (1) - 24図 支出を減らしている理由

(単位 %)

年	1年前と比較して支出を減らしている者について、支出を減らしている理由								
	将来の仕事や収入に不安があるから	年金や社会保険の給付が少なくなるとの不安があるから	不景気やリストラ等による収入の頭打ちや減少から	増税や社会保障負担の引き上げが行われるとの不安から	低金利で金利収入が少ないから	欲しい商品やサービスがあまりないから	ローンを抱える一方、不動産が値下がりしているから	たまたま大きな支出項目がなかったから	購入した株式や債券などの金融資産が値下がりしたから
2002	63.6	55.3	47.5	38.6	17.4	8.3	6.7	5.1	4.7
06	56.3	65.8	35.1	49.5	21.1	7.2	4.9	4.9	0.9

第2 - (1) - 25図 時間あたり賃金（前年比）と完全失業率の相関
(単位 %))

年	時間あたり賃金 (前年比)	完全失業率
1980	6.1	2.0
81	5.0	2.2
82	4.0	2.4
83	2.8	2.6
84	4.5	2.7
85	2.2	2.6
86	2.2	2.8
87	2.4	2.8
88	3.7	2.5
89	2.8	2.3
90	3.5	2.1
91	1.2	2.1
92	-0.8	2.2
93	-1.8	2.5
94	1.5	2.9
95	2.1	3.2
96	1.8	3.4
97	1.0	3.4
98	-2.3	4.1
99	-2.4	4.7
2000	0.5	4.7
01	-1.6	5.0
02	-3.7	5.4
03	0.2	5.3
04	-0.3	4.7
05	0.5	4.4
06	1.8	4.1

第2 - (1) - 26 図 消費者物価（前年比）と完全失業率の相関
(単位 %))

年	消費者物価指数 (前年比)	完全失業率
1980	7.5	2.0
81	4.8	2.2
82	3.1	2.4
83	1.9	2.6
84	2.1	2.7
85	2.0	2.6
86	0.8	2.8
87	0.3	2.8
88	0.4	2.5
89	2.4	2.3
90	2.7	2.1
91	2.9	2.1
92	2.2	2.2
93	1.3	2.5
94	0.8	2.9
95	0.0	3.2
96	0.2	3.4
97	1.7	3.4
98	0.3	4.1
99	0.0	4.7
2000	-0.4	4.7
01	-0.8	5.0
02	-0.9	5.4
03	-0.3	5.3
04	-0.1	4.7
05	-0.1	4.4
06	0.1	4.1

第2 - (2) - 1 図 週35時間未満、週60時間以上（非農林業）雇用者割合（うち従業者）の推移
(単位 %)

年	35時間未満従業者割合	60時間以上従業者割合
1990	15.2	15.9
91	16.3	14.3
92	17.3	12.1
93	18.2	10.6
94	18.8	10.5
95	17.4	10.8
96	19.4	11.1
97	21.1	10.5
98	21.2	10.4
99	21.8	11.0
2000	20.0	12.0
01	22.9	11.6
02	23.2	12.1
03	24.1	12.2
04	23.6	12.2
05	24.0	11.7
06	22.5	10.8

第2 - (2) - 2図 雇用形態・年齢階級別平均勤続年数

(単位 年)

年齢階級	正社員・正職員計	正社員・正職員以外計
17歳未満	1.2	1.0
18～19歳	0.9	0.9
20～24歳	2.2	1.7
25～29歳	4.9	2.6
30～34歳	8.4	3.3
35～39歳	11.7	3.9
40～44歳	14.9	4.7
45～49歳	17.9	5.8
50～54歳	21.1	7.3
55～59歳	22.9	8.7
60～64歳	16.7	11.8
65歳以上	17.8	11.7

第2 - (2) - 3図 雇用形態・勤続年数別賃金カーブ

(男性)

(勤続0年 = 100)

雇用形態	0年	1～2年	3～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～24年	25～29年	30年以上
正社員・正職員	100.0	104.9	112.0	117.6	130.7	151.0	170.0	179.5	184.4
正社員・正職員以外	100.0	103.6	105.8	108.0	126.3	129.6	123.0	123.8	128.8

(女性)

(勤続0年 = 100)

雇用形態	0年	1～2年	3～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～24年	25～29年	30年以上
正社員・正職員	100.0	105.5	109.8	116.0	125.9	137.2	147.0	160.1	170.5
正社員・正職員以外	100.0	100.4	99.6	98.2	96.4	100.4	100.9	97.9	106.5

第2 - (2) - 4図 就業形態別年収分布

(単位 %)

年収	正規の職員・ 従業員	パート・ アルバイト	派遣社員	契約社員・ 嘱託等
収入なし	0.0	0.0	0.0	0.0
50万円未満	0.9	17.0	5.7	4.0
50～99万円	1.8	37.9	11.4	7.6
100～149万円	4.1	26.2	15.4	15.2
150～199万円	6.2	9.9	17.1	18.1
200～299万円	19.0	6.6	35.0	28.5
300～399万円	19.8	1.6	11.4	14.4
400～499万円	15.3	0.4	3.3	6.1
500～699万円	17.5	0.2	0.8	4.3
700～999万円	11.9	0.1	0.0	1.4
1000～1499万円	3.1	0.0	0.0	0.4
1500万円以上	0.5	0.0	0.0	0.0

第2 - (2) - 5図 一般・パート別時給格差の推移

区 分	1時間当たり所定内給与額 (円)		格差 (一般労働者 = 100)
	パートタイム労働者	一般労働者	
男性労働者			
1995年	1,061	1,919	55.3
2000	1,026	2,005	51.2
2005	1,069	2,035	52.5
女性労働者			
1995年	854	1,213	70.4
2000	889	1,329	66.9
2005	942	1,365	69.0

第2 - (2) - 6図 標準労働者（同一企業への継続勤務者）の賃金格差（学歴別）
(十分位分散係数)

項目	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳
高卒 1980～89年平均	0.21	0.23	0.25	0.27	0.31	0.33
1990～99年平均	0.20	0.22	0.24	0.26	0.30	0.31
2000～06年平均	0.21	0.23	0.24	0.27	0.28	0.31
大卒 1980～89年平均	0.20	0.26	0.29	0.27	0.27	0.27
1990～99年平均	0.17	0.24	0.29	0.33	0.31	0.30
2000～06年平均	0.20	0.26	0.29	0.35	0.35	0.35

第2 - (2) - 7図 標準労働者（同一企業への継続勤務者）の賃金格差（労働者の種類別）
製造業・生産労働者（高卒） (十分位分散係数)

項目	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳
1980～89年平均	0.195	0.197	0.194	0.207	0.240	0.287
1990～99年平均	0.185	0.205	0.195	0.194	0.212	0.237
2000～06年平均	0.194	0.213	0.214	0.231	0.219	0.221

製造業・管理・事務・技術労働者（大卒） (十分位分散係数)

項目	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳
1980～89年平均	0.156	0.199	0.225	0.253	0.248	0.257
1990～99年平均	0.137	0.190	0.232	0.288	0.268	0.283
2000～06年平均	0.150	0.211	0.243	0.304	0.316	0.313

第2 - (2) - 8図 過去3年間の賃金制度の見直しとその内容

(単位 %)

企業規模	職務遂行能力の重視	個人の短期的な成果の重視	会社の業績の重視	職務、職種などの仕事の内容の重視	職能資格制度の改定・導入
300人未満	29.5	14.9	22.7	22.0	12.5
300～999人	27.2	17.7	18.7	24.5	21.1
1000人以上	27.3	27.3	26.4	25.5	19.1

企業規模	個人の仕事への努力の重視	手当を縮減し基本給へ組入れ	賃金表の導入	正社員の職種別に賃金制度を分ける	年俸制の改定・導入
300人未満	18.6	9.7	8.9	5.3	6.9
300～999人	15.6	12.5	8.9	7.3	6.1
1000人以上	15.5	12.7	7.3	7.3	7.3

企業規模	複線型賃金体系の改定・導入	基本給を抑制し、賞与のウエイトを相対的に拡大	基本給を増加し、賞与のウエイトを相対的に縮小	見直しは行っていない
300人未満	1.9	6.4	1.3	42.0
300～999人	4.3	8.9	3.4	40.1
1000人以上	5.5	5.5	0.0	38.2

第2 - (2) - 9図 賃金制度の見直しを行った理由

(単位 %)

企業規模	従業員の就業意欲を高めるため	これまでの賃金制度では従業員の貢献が賃金に反映されないから	従業員に自分の能力を高める意欲を持たせるため	業務遂行上のプロセスの評価を反映した賃金制度とするため
300人未満	61.9	50.3	43.7	32.3
300～999人	56.0	51.1	42.9	29.9
1000人以上	56.1	54.5	40.9	30.3

企業規模	従業員により高位の職務につきたいとの意欲を持たせるため	短期・弾力的に人件費を調整できるようにするため	賃金制度を簡素化するため	従業員の年齢・学歴別等の構成が大きく変化したため
300人未満	16.5	13.5	12.8	11.6
300～999人	22.8	20.1	11.4	10.9
1000人以上	19.7	13.6	13.6	7.6

企業規模	従業員間のコミュニケーションや協調性を確保するため	技術革新等にもない、仕事の仕方が変化したため	従業員の生活の安定を確保するため
300人未満	3.9	3.0	18.2
300～999人	1.6	2.2	13.6
1000人以上	6.1	4.5	3.0

第2 - (2) - 11図 資本金階級・職種別成果主義的賃金制度の導入割合

(単位 %)

職種	10億円未満	10～50億円未満	50～100億円未満	100億円以上
管理的職業従事者	55.6	74.8	77.8	89.9
専門的・技術的職業従事者	50.0	69.4	71.7	86.7
営業従事者	56.6	72.5	72.4	86.4
事務従事者	46.3	64.7	66.7	83.6
販売従事者	54.9	69.0	71.8	81.8
生産工程・労務作業	38.9	58.5	61.4	77.2

第2 - (2) - 12図 今後の望ましい賃金決定のあり方の推移

(単位 %)

年	定昇のみとし、成果や業績は賞与に反映すべき	定昇を中心とし、必要があればベアを行うべき	定昇制度を廃止し、成果や業績による賃金決定とすべき	定昇+ベア方式でいくべきである	その他
2003	25.5	6.7	60.6	0.6	6.7
04	30.4	5.7	56.9	1.1	5.9
05	36.0	9.3	45.3	1.0	8.3
06	40.7	15.1	34.6	1.4	8.1

第2 - (2) - 13図 特別給（賞与）の額の決定について

(単位 %)

企業規模	基本給を基準として、ほぼ決まっている	部門・会社の業績に応じて大きく変動する	個人の成果に応じて大きく変動する	特に明確なルールはない	その他	無回答
300人未満	34.5	33.4	18.4	6.2	2.7	4.8
300～999人	37.6	35.5	12.8	5.8	1.8	6.4
1000人以上	27.3	39.1	23.6	3.6	3.6	2.7

第2 - (2) - 14図 賃金総額に占める特別給（賞与）のウエイト

①これまでの賃金総額に占める特別給（賞与）のウエイト

(単位 %)

企業規模	特別給（賞与）のウエイトを高めてきている	どちらともいえない	特別給（賞与）のウエイトを低くしてきている	無回答
300人未満	15.5	70.6	13.1	0.8
300～999人	19.0	65.7	13.8	1.5
1000人以上	19.1	70.0	10.9	0.0

②今後の賃金総額に占める特別給（賞与）のウエイト

(単位 %)

企業規模	特別給（賞与）のウエイトを高めようと考えている	どちらともいえない	特別給（賞与）のウエイトを低くしようと考えている	無回答
300人未満	28.8	64.6	5.9	0.7
300～999人	26.3	64.2	8.0	1.5
1000人以上	27.3	69.1	3.6	0.0

第2 - (2) - 15図 同年代内での賃金格差の変化

(企業調査)

(単位 %)

年齢階級	拡大した	変わらない	縮小した	分からない	無回答
20歳代以下	11.3	77.8	5.5	2.9	2.5
30歳代	29.4	62.5	5.0	1.7	1.4
40歳代	36.3	55.9	4.3	2.0	1.5
50歳代以上	29.4	59.8	6.8	2.4	1.6

(従業員調査)

(単位 %)

年齢階級	拡大してきた	変わらない	縮小してきた	分からない	無回答
20歳代以下	12.4	44.2	0.9	42.0	0.6
30歳代	23.8	40.8	2.0	33.0	0.4
40歳代	25.8	42.5	2.4	28.4	0.9
50歳代以上	26.5	42.9	3.6	25.3	1.8

第2 - (2) - 16図 年齢階級別賃金決定方法についての過去3年間の納得度の変化

(単位 %))

年齢階級	以前より納得している	変化していない	以前より納得していない	無回答
20歳以下	10.4	68.2	18.8	2.6
30歳代	14.8	59.7	24.5	1.0
40歳代	15.7	60.0	23.0	1.3
50歳代以上	16.4	57.9	23.6	2.1

第2 - (2) - 17図 賃金決定方法についての納得度変化の理由

①以前より納得している理由

(単位 %)

年齢階級	自分の成果が正しく評価されるようになったから	仕事への努力が正しく評価されるようになったから	自分の能力が正しく評価されるようになったから	賃金の決め方についての説明が行われるようになったから	同世代の正社員と同程度かそれ以上の賃金水準となったから
20歳以下	37.4	37.4	29.9	15.0	13.6
30歳代	40.6	37.1	29.1	19.1	10.9
40歳代	41.1	34.9	25.5	16.7	8.7
50歳代以上	41.0	40.2	32.4	17.2	9.8

年齢階級	超過勤務手当や休日出勤手当などが適切に支給されるようになったから	賃金の決め方がわかりやすくなったから	業績や成果を評価する手法が改善されたから	部門・会社の業績が公正に配分されるようになったから	賃金水準が職務内容や責任に見合うものになったから
20歳以下	12.2	10.9	9.5	8.8	8.2
30歳代	7.4	20.0	13.1	12.0	14.9
40歳代	9.1	21.1	20.7	16.0	14.9
50歳代以上	5.9	20.7	19.9	25.0	18.0

②以前より納得していない理由

(単位 %)

年齢階級	仕事への努力が正しく評価されなくなったから	賃金水準が職務内容や責任に見合わないものになったから	賃金の決め方がわかりにくくなったから	業績や成果を評価する手法が改善されていないから	超過勤務手当や休日出勤手当などが適切に支給されなくなったから
20歳以下	36.6	30.2	29.8	26.4	22.6
30歳代	32.2	34.3	34.3	32.9	18.8
40歳代	38.0	32.5	28.8	37.5	16.4
50歳代以上	32.7	36.5	30.8	30.0	13.0

年齢階級	自分の能力が正しく評価されなくなったから	同世代の正社員に比べて賃金が低くなったから	自分の成果が以前より正しく評価されなくなったから	賃金の決め方についての説明が行われなくなったから	部門・会社の業績が公正に配分されなくなったから
20歳以下	21.1	19.6	16.6	16.6	12.8
30歳代	17.1	17.1	15.5	21.6	20.0
40歳代	22.1	12.9	17.4	14.6	26.1
50歳代以上	23.5	13.2	23.8	18.6	24.3

第2 - (2) - 18図 賃金決定基準として最も適切と考える要素

(単位 %)

年齢階級	個人の成果	仕事の困難さや職務内容	個人の資格や能力	仕事への努力	部門・会社の業績	勤続年数
20歳代以下	52.3	41.3	37.1	36.4	33.3	23.8
30歳代	54.5	46.2	36.1	30.8	40.2	17.9
40歳代	53.5	49.6	34.9	28.3	42.6	16.6
50歳代以上	48.1	46.9	35.7	28.1	43.9	19.0

年齢階級	職務経歴・経験	年齢	周囲との協調性やコミュニケーション能力	採用区分（一般職／総合職、など）	学歴
20歳代以下	17.0	11.8	9.3	4.3	3.3
30歳代	17.5	13.4	12.3	3.9	1.3
40歳代	20.5	12.3	9.7	2.9	2.2
50歳代以上	24.4	12.3	9.4	2.8	1.3

第2 - (2) - 21図 業績評価の課題、問題点への対処法別企業数割合

(単位 %)

項目	企業数割合
評価のためのマニュアルを作成している	46.6
低い評価を受けている労働者に対する対策を講じている	41.3
業績評価制度に基づく評価結果を本人に通知している	35.0
能力や勤務態度などの評価のウェイトを大きくしている	33.7
評価者に対する訓練を実施している	27.1
相対評価を取り入れるようにしている	26.3
目標達成のプロセスに対する評価項目のウェイトを大きくしている	22.8
グループやチームの成果・業績を反映するようにしている	16.9
業績評価制度について労働組合や労使協議機関を通じて話し合いを行っている	14.7
中長期的な成果・業績を測るようにしている	9.3
異議申し立て制度を導入している	8.0
成果・業績の評価が困難なところは評価を行わない	6.5
部下の上司に対する評価制度を設けている	3.3
業績評価に関する業務の外部委託（一部）をしている	1.8

第2 - (2) - 22図 みなし労働時間制採用企業数割合の推移

(単位 %)

年	みなし労働時間を採用している企業			変形労働時間制の種類 (複数回答)								
				事業場外労働のみなし労働時間制			専門業務型裁量労働制			企画業務型裁量労働制		
	1,000人以上	100～999人	30～99人	1,000人以上	100～999人	30～99人	1,000人以上	100～999人	30～99人	1,000人以上	100～999人	30～99人
1997	18.2	11.6	7.6	15.7	10.9	7.1	6.1	2.5	0.9	-	-	-
98	16.1	13.7	5.6	13.3	12.6	4.8	5.7	2.7	1.7	-	-	-
99	16.8	13.0	7.5	13.8	12.3	6.9	5.7	2.1	1.7	-	-	-
2001	18.5	12.2	6.3	15.3	11.4	5.7	5.6	1.8	1.5	0.8	0.5	0.4
02	20.9	11.0	6.9	16.9	9.7	5.7	7.3	2.3	0.6	0.9	0.9	0.9
03	19.7	13.0	5.9	15.9	11.7	5.4	7.4	2.8	0.7	1.7	0.8	0.1
04	23.2	13.1	8.1	20.3	11.8	6.9	7.3	3.1	2.2	1.9	0.9	0.3
05	26.6	15.9	9.1	22.2	13.6	7.1	8.0	3.9	3.1	3.2	1.2	0.3
06	25.9	16.2	7.9	20.6	14.3	6.3	9.5	3.4	2.3	4.3	1.0	0.4

第2 - (2) - 23図 変形労働時間制種類別企業数割合の推移

(単位 %)

年	変形労働時間制を採用している企業	変形労働時間制の種類		
		1年単位の 変形労働時間制	1か月単位の 変形労働時間制	フレックスタイム制
1990	13.2	0.6	10.7	2.2
91	18.1	1.0	14.8	2.7
92	27.7	1.5	23.3	3.5
93	27.4	1.6	22.7	3.9
94	31.3	7.6	21.2	3.6
95	30.1	8.7	18.3	4.3
96	40.5	15.1	22.4	4.8
97	54.4	35.9	16.3	4.4
98	54.8	34.3	17.5	5.1
99	53.0	33.3	16.6	5.7
2001	54.3	36.3	15.5	5.6
02	60.2	42.8	14.8	5.0
03	57.1	39.8	14.5	4.9
04	54.8	36.9	14.3	5.9
05	55.7	36.4	15.3	6.8
06	58.5	39.5	15.2	6.3

第2 - (2) - 24図 今後の労働時間管理のあり方について (企業側)

(単位 %)

項目	裁量労働制導入事業場	裁量労働制未導入企業
労働時間規制を受けない働き方の導入	43.9	30.0
現行のままでよい	39.1	43.8
裁量労働制の拡大	38.7	28.5
変形労働時間制の拡大	7.0	15.6
フレックスタイム制の拡大	3.3	9.5

第2 - (2) - 25図 勤務時間制度に対する満足度とその理由

①満足度

(単位 %)

勤務時間制度	満足	どちらかといえば満足	なんともいえない	どちらかといえば不満	不満	無回答
フレックスタイム制	19.4	56.3	5.6	13.1	5.0	0.6
管理職の緩やかな時間管理	24.8	50.5	3.8	11.4	8.6	1.0
裁量労働制	24.4	44.2	7.0	16.3	8.1	0.0
一般的な所定時間	21.3	44.8	7.4	17.7	8.5	0.4
変形労働時間	13.3	39.1	9.3	23.6	14.2	0.4
その他のみなし労働時間制	6.7	20.0	20.0	40.0	13.3	0.0

②満足の理由

(単位 %)

勤務時間制度	制度が働き方に適合	実際の運用が適合	仕事以外の生活と合う	その他・無回答
フレックスタイム制	33.9	35.5	29.8	0.8
管理職の緩やかな時間管理	25.3	48.1	24.1	2.5
裁量労働制	30.5	35.6	30.5	3.4
一般的な所定時間	33.9	27.6	36.0	2.7
変形労働時間	28.8	20.3	50.0	0.8
その他のみなし労働時間制	75.0	0.0	25.0	0.0

③不満足の理由

(単位 %)

勤務時間制度	制度が働き方に不適合	実際の運用が不適合	仕事以外の生活と合わない	その他・無回答
フレックスタイム制	27.6	34.5	31.0	6.9
管理職の緩やかな時間管理	28.6	42.9	23.8	4.8
裁量労働制	23.8	42.9	28.6	4.8
一般的な所定時間	26.0	35.4	31.8	6.7
変形労働時間	31.8	24.7	37.6	5.9
その他のみなし労働時間制	25.0	50.0	25.0	0.0

第2 - (2) - 26図 今後の労働時間管理のあり方について (労働者側)

(単位 %)

項目	専門業務型	企画業務型	管理監督者	一般労働者
年次有給休暇の容易な取得	26.9	22.1	20.0	28.1
休日の確実な取得	22.3	12.6	14.5	13.7
賃金不払い残業をなくす	20.4	10.9	5.5	15.1
勤務日の所定外残業の抑制	17.4	12.3	14.4	14.6
フレックスタイム制の利用	12.8	6.8	8.1	13.9
労働時間管理を受けない働き方の実現	11.3	24.9	17.1	8.1
裁量労働制の利用	4.7	5.0	6.1	5.7
特になし	35.8	36.5	39.9	34.8

第2 - (2) - 27図 雇用管理制度と従業員の働きやすさ、働きがいの向上に関する考え方
(単位 %)

項目	従業員が重要だと 考えているもの	企業が役に立つと 考えているもの
賃金・処遇関係		
仕事の成果を賃金に反映させる制度	45.8	87.6
目標管理制度	29.2	84.5
配置・処遇に関する苦情相談制度	16.6	69.2
年俸制	8.1	61.0
ストックオプション制度	7.4	49.1
職業能力開発関係		
資格取得の支援	35.2	87.7
自己啓発に関する支援制度	28.9	84.7
計画的なOJT	27.3	91.5
Off-JT制度	21.0	92.7
有給教育訓練休暇制度	14.6	75.5
外部教育訓練に関する情報提供	10.7	75.9
労働時間管理関係		
長期休暇制度	31.5	72.3
フレックスタイム制	25.9	73.9
休業期間が1年を超える育児休業制度	21.5	53.3
休業期間が3ヶ月を超える介護休業制度	17.6	49.5
育児・介護のための始業・終業時刻の調整	16.8	58.1
育児・介護のための残業・休日労働の免除	13.3	54.2
裁量労働制	10.2	77.8
短時間勤務制度	7.6	66.6
変形労働時間制	6.5	76.7
在宅勤務制度	4.2	60.0
人事・雇用管理関係		
自己申告制度	26.9	82.8
定年退職者の再雇用・60歳を超えた定年制	20.9	80.7
社内公募制度	14.3	79.7
育児・介護等理由の退職者の再雇用制度	14.0	63.1
専門職制度	10.7	72.3
転居を伴う転勤のない地域限定の勤務（正規従業員）	10.4	70.7
非正規従業員と正規従業員間の転換制度	10.3	78.3

第2 - (2) - 28 図 年間労働時間の推移

(単位 時間)

年	総実労働時間	所定内労働時間	所定外労働時間
1971	2,218	2,038	180
72	2,206	2,030	176
73	2,184	1,999	185
74	2,106	1,955	151
75	2,064	1,937	127
76	2,094	1,955	139
77	2,096	1,952	144
78	2,102	1,955	147
79	2,114	1,956	158
80	2,108	1,946	162
81	2,101	1,940	161
82	2,096	1,939	157
83	2,098	1,937	161
84	2,116	1,945	171
85	2,110	1,932	178
86	2,102	1,930	172
87	2,111	1,933	178
88	2,111	1,922	189
89	2,088	1,898	190
90	2,052	1,866	186
91	2,016	1,841	175
92	1,972	1,823	149
93	1,913	1,780	133
94	1,904	1,772	132
95	1,909	1,772	137
96	1,919	1,774	145
97	1,900	1,750	150
98	1,879	1,742	137
99	1,842	1,709	133
2000	1,859	1,720	139
01	1,848	1,714	134
02	1,837	1,700	137
03	1,846	1,700	146
04	1,840	1,691	149
05	1,829	1,680	149
06	1,842	1,687	155

第2 - (2) - 29 図 年齢階級別35時間未満及び60時間以上雇用者の割合

(単位 %))

性・年齢階級	1996年		2001年		2006年	
	35時間未満	60時間以上	35時間未満	60時間以上	35時間未満	60時間以上
男性 15～19歳	17.5	10.0	20.8	12.5	17.6	10.1
20～24歳	7.1	14.5	9.4	18.8	11.6	13.1
25～29歳	4.0	18.5	5.3	21.4	6.6	19.8
30～34歳	3.6	18.7	4.9	23.6	4.9	21.2
35～39歳	4.6	19.6	3.7	21.3	4.0	21.6
40～44歳	4.6	16.3	4.3	19.4	4.2	21.2
45～49歳	4.2	14.9	4.4	16.1	4.3	18.3
50～54歳	3.9	13.0	5.0	14.4	6.1	13.7
55～59歳	5.7	9.9	6.0	12.0	9.2	9.9
60～64歳	17.9	6.5	20.1	8.9	28.3	6.5
65歳以上	32.0	6.4	36.0	5.0	41.7	4.7
女性 15～19歳	20.8	4.2	26.1	4.3	34.4	1.6
20～24歳	13.3	4.1	17.4	4.8	22.2	4.6
25～29歳	17.7	4.7	20.3	5.3	21.6	4.8
30～34歳	29.8	2.8	31.4	3.4	29.0	4.3
35～39歳	40.4	2.2	42.4	2.5	40.3	3.5
40～44歳	41.2	2.5	46.5	2.6	43.9	3.2
45～49歳	38.4	2.7	45.4	2.3	43.7	2.5
50～54歳	36.1	3.4	42.6	3.3	46.9	2.6
55～59歳	32.9	3.4	40.2	3.4	47.1	3.4
60～64歳	42.1	2.6	48.4	3.2	55.0	2.7
65歳以上	48.0	4.0	56.9	1.7	58.0	3.3

本文図表基礎資料

第2 - (2) - 30 図 営業時間別事業所数の構成比推移

(単位 %)

年	8時間未満	8～9時間 未満	9～10時間 未満	10～11時間 未満	11～12時間 未満	12～13時間 未満	13～14時間 未満	14～24時間 未満	終日営業
1982	2.1	7.5	17.2	17.9	17.3	17.1	11.2	9.6	0.2
91	3.2	8.2	20.5	19.6	15.9	14.9	8.8	7.8	1.1
2002	5.1	10.2	21.5	23.3	15.7	11	5.1	5.1	3.0
04	5.4	10.6	22.2	22.9	15.2	10.5	4.7	5.0	3.5

第2 - (2) - 32 図 小売業における営業時間と正社員・非正社員構成の関係

(単位 人)

営業時間	正社員	パート・アルバイト等
8時間未満	35,712	55,770
8時間以上 10時間未満	867,058	529,570
10時間以上 12時間未満	925,067	1,266,163
12時間以上 14時間未満	323,306	734,486
14時間以上 24時間未満	126,555	411,006
終日営業	65,854	571,957
不詳	85,466	337,713

第2 - (2) - 33図 売上高経常利益率の推移 (全産業及び小売業)
(単位 %))

年	全産業	小売業
1985	2.0	1.1
86	2.0	1.5
87	2.5	1.6
88	2.8	1.9
89	3.0	1.9
90	2.7	1.7
91	2.3	1.6
92	1.8	1.3
93	1.4	0.8
94	1.5	0.9
95	1.8	1.1
96	1.9	1.1
97	1.9	1.0
98	1.5	0.6
99	1.9	1.0
2000	2.5	1.2
01	2.1	1.2
02	2.3	1.5
03	2.7	1.6
04	3.1	1.6
05	3.4	2.0

第2 - (2) - 34図 企業規模別年次有給休暇取得率の推移
(単位 %)

年	1,000人以上	100～999人	30～99人
1986	51.8	49.2	48.8
87	51.6	49.1	48.1
88	51.2	49.2	48.7
89	53.7	49.7	49.4
90	54.7	52.1	50.1
91	58.3	52.2	50.3
92	59.6	53.2	51.5
93	59.8	52.4	52.8
94	56.8	51.1	51.9
95	58.7	52.2	51.9
96	58.5	50.4	50.3
97	60.0	49.5	48.0
98	56.7	48.9	45.9
99	56.5	47.3	43.7
2001	54.6	46.5	44.6
02	51.7	46.1	45.6
03	53.1	45.5	43.1
04	53.9	42.9	43.3
05	52.1	42.9	42.7
06	53.4	43.1	42.8

第2 - (2) - 35図 週労働時間階級別過去1年間の有休取得日数

(単位 %))

週労働時間	3日未満	3～5日未満	5～8日未満	8～10日未満	10～15日未満	15～20日未満	20日以上	無回答
40時間未満	11.3	10.7	22.0	5.2	24.0	14.3	10.6	1.9
40～50時間未満	14.4	15.4	22.9	7.2	23.5	8.1	6.2	2.5
50～60時間未満	17.6	19.4	24.8	7.2	18.8	4.8	4.5	2.9
60～70時間未満	25.6	22.1	24.6	4.1	15.6	3.7	2.0	2.3
70時間以上	29.4	25.7	24.3	5.1	8.1	3.7	2.2	1.5

第2 - (2) - 36図 週労働時間階級別残業や深夜・休日出勤などがある理由

(単位 %))

週労働時間	所定労働時間内では片付かない仕事量だから	突発的な業務がしばしば発生するから	取引先(顧客)との関係で、時間を合わせる必要があるから	最近の人員削減により、人手不足だから	事業活動の繁閑の差が大きいため	組織又は個人の仕事の進め方に無駄が多いから	より高い成果を挙げたいから	上司や同僚が残業をしているので、先に帰りにくいから	長時間働く方が会社に評価されるから	残業手当や業績手当などの各種手当を増やしたいから
40時間未満	49.4	42.2	12.8	15.3	15.1	6.8	4.7	5.0	1.2	3.4
40～50時間未満	50.8	43.3	16.3	16.0	17.0	7.9	6.0	5.4	1.7	3.2
50～60時間未満	65.0	48.8	21.0	23.2	17.5	12.5	10.1	7.6	1.9	4.0
60～70時間未満	69.1	48.8	24.4	28.0	16.6	15.2	12.6	7.5	2.4	4.1
70時間以上	97.6	79.0	52.5	51.1	40.4	38.9	31.7	10.8	4.9	1.9

第2 - (2) - 38図 男性壮年層雇用者のコーホート変化

(単位 万人)

年	30歳台	40歳台
1985→90	3	-3
1990→95	-2	-4
1995→2000	-16	-22
2000→05	-17	-21

第2 - (2) - 39図 長時間労働者がいることによる影響

(単位 %))

事業所規模	生産性が低下する	従業員の就業意欲が低下する	有能な人材確保ができなくなる	社会的な評判が低下する
300人未満	43.9	44.8	38.5	36.3
300～999人	52.0	53.8	49.8	45.9
1,000人以上	68.2	70.0	57.3	60.0

第2 - (2) - 41 図 週平均労働時間別現在の仕事の疲労感、ストレス感
(単位 %)

週平均労働時間	体力的に疲労を感じる	精神的にストレスを感じる	感じない	無回答
5時間未満	0.0	33.3	50.0	16.7
5～10時間未満	16.8	59.1	30.4	4.2
10～15時間未満	38.7	73.8	13.7	3.1
15～20時間未満	20.0	30.0	56.7	3.3
20～25時間未満	15.9	37.0	47.1	6.5
25～30時間未満	14.5	41.9	50.0	2.3
30～35時間未満	16.9	40.7	48.3	3.5
35～40時間未満	16.8	55.3	33.1	5.3
40～45時間未満	15.6	56.2	34.2	4.3
45～50時間未満	21.6	64.8	25.4	3.3
50～55時間未満	28.7	67.3	21.6	4.0
55～60時間未満	38.2	75.8	14.3	3.2
60時間以上	45.2	71.4	15.5	2.7

第2 - (2) - 42 図 長時間労働とメンタルヘルスの関係

(単位 %, ポイント)

月超過労働時間	「一日の仕事で疲れ退社後何もやる気になれない」者の割合	抑うつ傾向得点
0時間	24.7	39.6
1～24時間	37.9	41.4
25～49時間	43.0	41.8
50～74時間	58.1	43.1
75～99時間	71.8	44.6
100時間以上	73.8	45.6

第2 - (2) - 43 図 実労働時間階級別健康のために普段実施していることの有無及び内容別労働者割合
(単位 %)

実労働時間	健康法の実施有	健康法の内容							
		食事に気をつけている	睡眠をよくとるようにしている	散歩、体操、ジョギング等軽い運動	たばこをすわないあるいは控えている	健康食品、栄養剤等の摂取	酒を飲まないあるいは控えている	テニス、水泳、ゴルフ等のスポーツ	ストレッチやマッサージ等のリラクゼーションを行っている
6時間未満	80.8	55.1	40.7	27.0	26.2	21.0	19.4	16.4	12.9
6時間以上7時間未満	80.0	49.3	39.4	29.7	35.4	26.8	27.9	8.9	12.0
7時間以上8時間未満	81.8	44.2	43.8	30.3	31.0	20.1	23.8	20.8	12.6
8時間以上9時間未満	80.1	43.9	36.4	28.1	32.3	18.3	23.4	23.7	10.5
9時間以上10時間未満	78.7	38.5	39.1	25.1	30.6	18.6	18.4	29.3	11.0
10時間以上	72.5	34.0	31.1	32.7	34.3	21.0	25.0	19.8	13.1

第2 - (2) - 44図 従業員の健康維持のための取組み

① 従業員の健康維持のために会社が行っている取組み (単位 %)

項目	割合
労働時間の適正化に向けた仕事の役割・分担の見直し	53.5
年次休暇等の取得促進の取組み	28.2
正社員の補充	23.5
長時間労働の者やその上司に対する注意や助言	57.3
専門家による健康問題やメンタルヘルスなどに関する相談サービス	31.1
ノー残業デーの実施	21.2
非正社員や外部人材の導入	35.2
退勤時刻の際の終業の呼びかけ	17.8
業務の外部委託の推進	16.2
その他	1.9

② 従業員が、会社が行うことが重要だと考える取組み (単位 %)

項目	割合
労働時間の適正化に向けた仕事の役割・分担の見直し	59.0
年次休暇等の取得促進の取組み	45.5
正社員の補充	31.7
長時間労働の者やその上司に対する注意や助言	31.2
専門家による健康問題やメンタルヘルスなどに関する相談サービス	26.9
ノー残業デーの実施	23.2
非正社員や外部人材の導入	13.7
退勤時刻の際の終業の呼びかけ	12.6
業務の外部委託の推進	8.6
その他	2.7

第2 - (3) - 1図 男女別有業者の平日の生活時間の推移

(単位 時間)

項目	男性			女性		
	1981年	1991年	2001年	1981年	1991年	2001年
1次活動	10.47	9.95	9.97	10.35	10.03	10.10
2次活動 (通勤・通学、仕事、学業) (家事、介護・看護、育児、買い物)	9.22	9.37	9.13	7.10	6.97	6.50
	0.12	0.22	0.30	2.95	2.98	2.82
3次活動	4.20	4.47	4.62	3.60	4.03	4.57

第2 - (3) - 2図① 男女別有業者・平日の活動別生活時間

(単位 時間)

項目	男性 (総数)			女性 (総数)		
	1981年	1991年	2001年	1981年	1991年	2001年
1次活動						
睡眠	7.90	7.57	7.45	7.52	7.23	7.15
身の回りの用事、食事	2.57	2.38	2.52	2.83	2.80	2.97
2次活動						
通勤・通学	1.00	1.00	0.98	0.60	0.68	0.67
仕事	8.18	8.28	8.03	6.47	6.20	5.68
家事、介護・看護、育児	0.07	0.13	0.18	2.53	2.57	2.40
3次活動						
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎ	3.05	3.02	3.00	2.75	2.77	2.90
趣味・娯楽、スポーツ	0.40	0.47	0.55	0.25	0.37	0.45
ボランティア活動・社会参加活動、交際・付き合い	0.35	0.47	0.33	0.22	0.35	0.38

第2 - (3) - 2図② 男性有業者・平日の活動別生活時間

(単位 時間)

項目	男性 (30歳台)			男性 (40歳台)		
	1981年	1991年	2001年	1981年	1991年	2001年
1次活動						
睡眠	7.83	7.43	7.24	7.82	7.45	7.24
食事、身の回りの用事	2.50	2.32	2.42	2.60	2.35	2.48
2次活動						
通勤・通学	1.07	1.05	1.11	1.03	1.05	1.04
仕事	8.57	8.92	9.04	8.45	8.78	8.82
家事、介護・看護、育児	0.07	0.12	0.20	0.07	0.10	0.15
3次活動						
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養、くつろぎ	2.77	2.72	2.52	2.88	2.80	2.76
趣味・娯楽、スポーツ	0.40	0.43	0.48	0.38	0.43	0.43
ボランティア活動・社会参加活動、交際・付き合い	0.35	0.43	0.26	0.35	0.47	0.32

第2 - (3) - 4図 週間就業時間別生活時間の違い (有業者平均との比較—週全体)

(単位 時間)

週間就業時間	1次活動	2次活動 (家事関連)	2次活動 (通勤・通学、仕事・学業)	3次活動
男性 35時間未満	0.48	0.05	-2.02	1.43
60時間以上	-0.62	-0.07	2.15	-1.42
女性 35時間未満	0.00	0.78	-1.45	0.58
60時間以上	-0.48	-0.93	2.87	-1.32

第2 - (3) - 5図 有業者、無業者別生活時間の違い (総平均との比較—平日)

(単位 時間)

項目	1次活動	2次活動 (家事関連)	2次活動 (通勤・通学、仕事・学業)	3次活動
男性 有業者	-0.28	-0.08	1.57	-1.15
無業者	0.93	0.32	-5.13	3.78
女性 有業者	-0.38	-0.82	2.58	-1.32
無業者	0.42	0.90	-2.88	1.45

第2 - (3) - 6図 雇用形態別生活時間の違い (有業者平均との比較—週全体)

(単位 時間)

雇用形態	1次活動	2次活動 (家事関連)	2次活動 (通勤・通学、仕事・学業)	3次活動
男性 正規従業員	-0.20	0.00	0.50	-0.32
非正規従業員	0.18	-0.02	-1.35	1.12
女性 正規従業員	-0.10	-0.82	1.38	-0.40
非正規従業員	-0.03	0.28	-0.60	0.28

第2 - (3) - 7図 世帯の就業構造別家事・育児分担状況

(単位 %)

世帯の就業構造	夫婦平等・夫担当	親族依存	妻担当
共稼ぎ世帯	19.0	16.2	64.0
片稼ぎ世帯・夫就業	11.0	4.8	83.3

第2 - (3) - 8図 夫の労働時間別家事・育児分担状況

(単位 %)

夫の労働時間	夫婦平等・夫担当	親族依存	妻担当
45時間未満	17.7	10.5	70.2
45～54時間	17.5	9.4	73.1
55時間以上	11.8	12.4	75.3

第2 - (3) - 9図 妻の就業形態別家事・育児分担状況

(単位 %)

妻の就業形態	夫婦平等・夫担当	親族依存	妻担当
正規従業員	32.1	30.2	37.7
非正規従業員	14.6	14.6	70.7
自営・家族従業・内職	9.8	2.4	85.4

第2 - (3) - 10図 親との同居の有無別家事・育児分担状況

(単位 %)

親との同居	夫婦平等・夫担当	親族依存	妻担当
なし	18.0	2.7	78.5
あり	8.2	37.3	53.6

第2 - (3) - 12図 仕事と生活の調和の考え方 (男女別)

(現在の仕事と生活の優先度)

(単位 %)

性別	仕事	どちらかといえば 仕事	同じくらい	どちらかといえば 生活	生活
男性	27.6	38.8	18.1	11.1	4.2
女性	19.1	39.4	23.7	13.0	4.6

(これからの仕事と生活の希望優先度)

(単位 %)

性別	仕事	どちらかといえば 仕事	同じくらい	どちらかといえば 生活	生活
男性	6.9	19.6	36.5	25.8	11.0
女性	2.4	9.6	41.4	33.6	12.7

第2 - (3) - 13図 今後利用したい勤務制度

(単位 %)

性別	学習等の自己啓発のための休暇制度	在宅勤務制度	育児に係る経費の補助	短時間正社員制度	勤務地限定の正社員制度	ボランティア休暇制度	子どもの送迎等のための早退や遅刻の許可	育児や介護を行う従業員に対する残業・休日労働の減免措置	法定以上の介護休業制度	夜間学校・講座等への通学のための残業・休日労働の減免措置	法定以上の育児休業制度	事業所内託児所等の設置	法定以上の子の看護に関する休業制度
男性	27.2	20.9	20.2	20.1	14.1	12.3	12.0	11.6	11.2	8.7	7.0	4.0	2.5
女性	21.1	15.6	16.8	33.1	8.8	4.9	19.0	17.0	13.7	8.7	16.7	12.0	5.2

第2 - (3) - 14図 各種勤務制度の導入状況

(単位 %)

項目	育児や介護を行う従業員に対する残業・休日労働の減免措置	子どもの送迎等のための早退や遅刻の許可	法定以上の育児休業制度	法定以上の介護休業制度	勤務地限定の正社員制度	法定以上の子の看護に関する休業制度	短時間正社員制度	ボランティア休暇制度	学習等の自己啓発のための休暇制度	夜間学校・講座等への通学のための残業・休日労働の減免措置	育児に係る経費の補助	在宅勤務制度	事業所内託児所等の設置
ある	50.3	25.6	18.0	16.6	15.6	13.3	8.5	8.1	5.4	5.2	5.1	2.4	1.1
検討中	9.8	6.9	6.7	6.7	5.1	6.3	3.0	4.8	6.4	4.6	3.2	3.3	2.0

第2 - (3) - 15図 育児休業取得の希望と有無

(単位 %)

項目	取得した	希望したが、取得しなかった	希望も取得もしなかった
全体	27.4	34.1	36.4
男性	3.2	41.2	54.6
女性	60.2	24.4	11.7

第2 - (3) - 16図 育児休業を取得しなかった理由（育児休業を利用できたのに取得しなかった者）

(単位 %)

性別	自分以外に育児をする人がいた	業務が繁忙であった	職場への迷惑がかかるため	家計が苦しくなる	職場が育児休業を取得しにくい雰囲気であった	仕事にやりがいを感じていた	職場や仕事の変化に対応できなくなると思った	出世にひびくと思った	配偶者や家族からの反対があった
男性	57.3	42.7	41.1	29.0	15.3	14.5	8.9	7.3	0.0
女性	12.5	35.0	57.5	32.5	20.0	7.5	25.0	0.0	7.5

第2 - (3) - 17図 短時間勤務制度等の導入している企業における男性の取得率（企業調査）

(単位 %)

取得実績	1日あたりの労働時間短縮	残業なし	始業または終業時刻の繰上げ、繰下げ	フレックスタイム勤務	特定の曜日について労働時間短縮	週に2~4日の勤務	必要に応じて在宅勤務を認める
あり	78.8	66.7	60.6	36.4	9.1	9.1	3.0
なし	65.8	50.1	42.9	16.5	14.8	6.2	1.8

第2 - (3) - 18図 仕事と生活の調和を図るための制度を整備することの効果

(従業員調査)

(単位 %)

項目	そう思う	ややそう思う	あまり そう思わない	そう思わない
従業員の就業意欲が向上する	36.8	42.2	16.4	2.4
従業員の生産性が高まる	33.2	42.0	19.3	3.1
有能な人材確保ができる	24.8	36.6	31.3	4.7
企業の社会的評判が高まる	22.6	39.7	30.1	4.9
企業が社会的責任を果たせる	22.5	43.1	27.9	3.5
企業にとってメリットがあると思えない	5.4	17.3	42.7	31.6

(企業調査)

(単位 %)

項目	非常に あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
従業員の就業意欲が向上する	16.1	67.9	12.9	0.9
従業員の生産性が高まる	12.2	59.0	24.6	1.5
有能な人材が確保ができる	15.3	62.4	19.1	0.9
(企業の) 社会的評判が高まる	8.9	54.8	32.2	1.1
(企業が) 社会的責任を果たせる	11.2	64.7	20.5	0.9
企業にとってメリットがあると思えない	1.5	16.4	53.2	22.7

第2 - (3) - 19図 1年以内に結婚してもよいと考える未婚者割合

(単位 %)

性別	正規雇用	派遣・嘱託	パート・アルバイト	無職・家事
男性	56.3	41.0	29.5	34.6
女性	63.3	65.6	56.9	54.8

第2 - (3) - 20図 配偶者がいない理由

(単位 %)

性別	結婚したい相手にめぐり合わないから	独身が気楽だから	趣味や好きなことをしていたから	結婚するにはまだ若いから	なんとなく	結婚する必要や魅力を感じないから	金銭的に余裕がないから	仕事が忙しく、異性にめぐり会う機会がないから	配偶者と離別・死別したから	親の介護など、家族のことが心配だから	雇用が不安定など、将来に不安があるから	仕事に打ち込みたいから
男性	40.2	29.0	21.1	15.4	19.9	13.3	33.2	20.6	10.9	5.2	9.2	3.7
女性	46.2	24.4	23.6	19.8	19.6	16.0	15.8	11.8	11.7	6.9	3.6	3.2

第2 - (3) - 21 図 年齢階級別・就業者（うち従業員）に占める週の労働時間が60時間以上の者の割合（非農林業）
（単位 %）

年	年齢計	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～59歳
1982	17.4	10.7	18.0	20.1	18.4	16.0
83	18.3	11.6	19.4	21.1	19.0	16.2
84	18.0	11.6	19.2	20.5	19.1	15.9
85	18.3	11.9	19.9	20.9	19.2	16.0
86	18.5	12.0	20.3	20.8	19.5	16.2
87	18.9	12.7	20.6	21.3	20.3	16.7
88	19.3	13.4	21.2	21.4	20.9	17.3
89	18.8	12.8	20.7	20.8	20.4	17.0
90	17.8	11.5	19.9	19.7	19.2	16.6
91	16.2	10.2	18.1	18.1	17.5	15.2
92	13.8	8.4	15.3	15.7	15.0	13.7
93	12.3	7.4	13.9	13.9	13.3	12.1
94	12.2	7.5	13.7	13.6	13.1	12.0
95	12.3	7.8	14.1	13.8	13.2	12.4
96	12.4	7.8	14.3	14.1	13.1	12.4
97	11.8	7.5	13.7	13.7	12.1	11.5
98	11.7	7.3	13.5	13.4	11.9	11.3
99	12.2	7.5	14.4	14.3	12.3	11.5
2000	13.0	8.1	15.8	15.3	12.8	11.8
01	12.6	8.0	14.8	15.2	12.3	11.2
02	13.1	8.1	15.3	15.6	13.0	11.5
03	13.1	8.3	15.3	15.7	12.7	11.6
04	13.0	8.2	15.0	15.8	12.9	11.3
05	12.5	7.6	14.4	15.6	12.2	11.0
06	11.5	6.8	13.6	14.4	11.5	9.8

第2 - (3) - 22 図 結婚することは利点があると考える未婚者割合

（単位 %）

性別	正規雇用	派遣・嘱託	パート・アルバイト	無職・家事
男性	72.0	62.1	54.5	53.2
女性	78.2	79.4	70.3	63.5

第2 - (3) - 23 図 労働力人口の推移と見通し

（単位 万人）

項目	1970年	75	80	85	90	95	2000	05	10	15	20	25	30
労働市場への参加が進まない場合	5,153	5,323	5,650	5,963	6,384	6,666	6,766	6,650	6,448	6,237	6,037	5,835	5,597
労働市場への参加が進む場合（拡大幅）	-	-	-	-	-	-	-	-	192	298	374	442	512

第2 - (3) - 24図 年齢階級別完全失業率の推移

(単位 %)

年	年齢計	15～34歳	35～54歳	55歳以上
1980	2.0	2.6	1.3	2.5
81	2.2	2.9	1.5	2.8
82	2.4	3.1	1.6	2.9
83	2.6	3.4	1.9	3.1
84	2.7	3.5	1.9	3.3
85	2.6	3.5	1.8	3.3
86	2.8	3.7	1.9	3.3
87	2.8	3.8	2.0	3.3
88	2.5	3.5	1.7	2.9
89	2.3	3.2	1.5	2.5
90	2.1	3.1	1.4	2.1
91	2.1	3.2	1.4	2.1
92	2.2	3.3	1.4	2.1
93	2.5	3.8	1.6	2.4
94	2.9	4.2	1.9	2.9
95	3.2	4.7	2.1	3.0
96	3.4	5.0	2.1	3.4
97	3.4	5.1	2.2	3.2
98	4.1	5.9	2.7	4.1
99	4.7	6.8	3.2	4.4
2000	4.7	6.8	3.2	4.5
01	5.0	7.2	3.6	4.7
02	5.4	7.5	4.0	4.7
03	5.3	7.5	3.9	4.7
04	4.7	6.8	3.6	3.8
05	4.4	6.5	3.4	3.5
06	4.1	6.1	3.2	3.4

第2 - (3) - 25図 年齢階級別正規雇用割合の推移

(単位 %)

年	年齢計	15～24歳 (在学者を除く)	25～34歳	35～44歳	45～54歳
1985	83.8	93.3	90.2	82.4	82.8
92	80.0	90.6	88.4	79.1	79.3
95	79.2	87.1	88.2	79.6	79.2
2000	74.2	76.8	84.2	77.0	75.5
05	67.8	65.4	76.3	73.5	70.0
06	66.8	65.7	74.3	73.4	69.7

第2 - (3) - 26図 非正社員の現在の就業形態を選択した理由別労働者割合 (15～34歳)

(単位 %)

年	都合の良い時間に働ける	正社員として働ける会社がない	家庭や他の活動との両立	家計の補助・学費等を得る	専門的な資格・技能	通勤時間が短い	勤務時間や労働日数が短い	より収入の多い仕事	組織にしがたれない	簡単な仕事で責任も少ない	体力的に正社員で働けない
1999	35.2	18.1	25.2	21.4	12.0	23.6	16.6	9.6	12.2	9.5	3.1
2003	28.9	26.9	23.7	19.9	15.4	14.1	13.3	11.5	11.2	5.9	3.1

第2 - (3) - 27 図 年齢階級別女性労働力人口比率の推移

(単位 %)

年	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
1996	16.3	73.8	67.9	54.8	60.8	69.5	71.6	66.9	58.1	39.0	15.4
2006	16.6	70.1	75.7	62.8	63.6	71.4	74.0	70.5	60.3	40.2	13.0

第2 - (3) - 28 図 女性のライフコースとその希望割合

(未婚女性の予定のライフコース)

(単位 %)

年	専業主婦	再就職	両立	DINKS	非婚就業
1987	23.9	42.2	15.3	1.4	7.1
92	19.2	45.8	14.7	2.6	9.5
97	17.8	42.9	15.6	3.0	9.3
2002	13.7	41.8	17.7	4.0	12.5
05	11.7	37.1	20.9	3.2	15.6

(未婚女性の理想のライフコース)

(単位 %)

年	専業主婦	再就職	両立	DINKS	非婚就業
1987	33.6	31.1	18.5	2.5	3.7
92	32.5	29.7	19.3	4.1	3.3
97	20.8	34.3	27.5	4.4	4.4
2002	18.9	36.7	27.6	4.0	5.3
05	19.0	33.3	30.3	4.1	5.1

(男性が期待する女性のライフコース)

(単位 %)

年	専業主婦	再就職	両立	DINKS	非婚就業
1987	37.9	38.3	10.5	0.7	0.8
92	30.4	44.2	10.8	0.9	0.6
97	20.7	43.4	17.1	1.5	1.0
2002	18.2	46.8	18.7	1.4	1.6
05	12.5	38.7	28.2	2.8	3.0

第2 - (3) - 29 図 夫の所得階級別の妻の有業率

(単位 %)

夫の所得	1982年	1992年	2002年
100万円未満	62.1	58.0	53.0
100～199	62.7	62.6	58.7
200～299	56.8	65.8	61.6
300～399	51.4	63.1	61.0
400～499	49.6	59.5	58.0
500～699	44.2	57.9	57.0
700万円以上	37.6	51.6	52.2

第2 - (3) - 31図 高年齢層における就業率の推移

(単位 %))

年	55～59歳	60～64歳
1980	67.1	54.1
81	66.8	52.9
82	67.2	52.5
83	68.2	52.2
84	67.6	51.0
85	67.9	51.1
86	67.4	51.1
87	68.0	51.0
88	68.7	51.3
89	70.0	52.3
90	71.3	53.4
91	72.7	54.7
92	72.9	55.1
93	73.5	54.6
94	73.1	53.6
95	73.4	53.4
96	74.0	52.6
97	74.4	53.1
98	73.9	52.5
99	73.4	52.0
2000	73.0	51.0
01	72.5	50.7
02	72.2	50.6
03	72.5	50.7
04	73.5	51.5
05	73.8	52.0
06	73.8	52.6

第2 - (3) - 32図 高年齢層における完全失業率の推移

(単位 %))

年	55～59歳	60～64歳
1980	2.6	3.6
81	2.9	3.6
82	3.0	3.9
83	3.3	4.5
84	3.4	4.7
85	3.3	4.9
86	3.4	4.9
87	3.3	5.3
88	2.8	4.7
89	2.4	4.2
90	2.0	3.5
91	1.7	3.6
92	1.7	3.7
93	1.8	4.6
94	2.4	5.3
95	2.4	5.7
96	2.6	6.4
97	2.5	6.2
98	3.3	7.5
99	3.9	7.9
2000	3.9	8.0
01	4.1	8.1
02	4.5	7.7
03	4.5	7.5
04	3.7	5.7
05	3.6	4.9
06	3.5	4.5

第2 - (3) - 33図 年齢階級別有効求人倍率・新規求人倍率 (2006年)

(単位 倍)

項目	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
新規求人倍率	1.30	1.71	1.87	1.87	1.72	1.48	1.24	1.06	0.90	0.89	0.84
有効求人倍率	0.90	1.21	1.33	1.31	1.20	1.01	0.83	0.71	0.59	0.58	0.56

第2 - (3) - 35図 仕事と生活の調和の状況別仕事の満足・就業意欲の状況

(仕事の満足)

(単位 %)

項目	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
合計	13.2	45.2	29.9	9.0	2.6
調和がとれている	18.6	52.6	22.7	3.8	2.3
調和がとれていない	6.1	35.8	39.8	16.0	2.4

(就業意欲)

(単位 %)

項目	高まった	変わらない	低下した	わからない	無回答
合計	18.8	48.0	26.9	5.1	1.2
調和がとれている	22.0	52.9	19.2	5.1	0.8
調和がとれていない	14.9	41.9	36.9	4.9	1.4

第2 - (3) - 37図 仕事と生活の調和がとれていないと感じる理由

(単位 %)

仕事と生活の調和がとれていないと感じる理由	趣味の時間がとれないから	家族とともに過ごす時間が少ないから	家においても仕事のことが常に気にかかるから	自分のための勉強ができなから	育児のための時間がとれないから	介護のための時間がとれないから
割合	49.3	47.9	42.2	27.5	10.3	2.5